

■■■ 北秋田市民の完走者成績 ■■■

総合順位を掲載しています（氏名の色文字は女性）

100キロの部					
順位	氏 名	順位	氏 名	順位	氏 名
9	高 橋 孝 典	258	永 坂 洋 男	568	小 坂 泰 子
21	櫻 田 雅 人	264	三日田和彦	582	斉 藤 聡
25	白 渡 恭 兵	288	簾 内 久	588	金 澤 聡 志
39	堀 井 健 康	352	森 川 鐵 雄	611	安 井 康 弘
72	工 藤 博 幸	377	鈴 木 準	624	富 谷 和 史
98	春 日 昭 美	408	小 塚 儀 彦	(市民の完走者35人)	
121	伊 東 範 光	412	佐 藤 敏 博		
139	田 中 圭 一 郎	427	佐 藤 誠		
151	簾 内 翔	429	木 村 等		
166	山 田 賢 一	436	仙北谷 彰		
174	片 岡 洋 一	500	和 田 成 基	■出走者 1110人	
211	佐 藤 博 之	506	澤 藤 晃	男性 953人	
220	高 橋 賢 司	535	松 岡 正 晃	女性 157人	
237	松 橋 真 幸	553	柴 田 誠 一	■完走者 662人	
257	松 橋 康 浩	566	藤 原 純 一	男性 584人	
				女性 78人	
				■完走率 59.6%	

50キロの部					
順位	氏 名	順位	氏 名	順位	氏 名
9	山 口 武 造	99	永 井 春 香	185	佐 藤 国 弘
11	片 岡 透	103	堀 内 美 香 子	191	大 井 英 利
15	小 出 真 一	104	杉 渕 拓 弥	197	勝 又 立 雄
16	佐 藤 一 歩	105	桜 田 里 紗	203	久 留 島 伸 香
21	米 澤 聖	108	佐々木浩一	205	工 藤 隆
35	柴 田 裕 孝	117	浅 村 隆 太	211	永 井 秀 一 郎
37	成 田 保 仙	121	佐 藤 康 志	213	和 田 真 輝
40	高 橋 嘉 仙	124	木 村 龍 潤	219	小 笠 原 啓 仁
53	照 内 智	125	上 杉 光	220	小 塚 大 地
60	長 崎 有 夏	128	川 口 正 太	224	金 勝 彦
61	北 林 照 一 郎	132	奈 良 吾	229	成 田 潤
63	佐 藤 勇	133	戸 島 昭 彦	235	片 岡 新 一
64	三 浦 浩 幸	140	宮 腰 和 彦	239	足 田 純 一
67	武 石 笑 歌	141	長 崎 馨	240	吉 田 喜 代 志
69	柴 田 富 雄	144	佐々木久美子	(市民の完走者62人)	
72	佐々木 剛	147	三日田貴彦		
78	佐 藤 吏	152	畠 山 孝 秀		
80	工 藤 元 裕	157	森 川 卓 也		
82	片 岡 恵 太	159	佐 藤 頼 孝		
84	武 石 涼	160	松 橋 康 陽	■出走者 351人	
85	泉 谷 広	169	浪 岡 幸 紀	男性 249人	
90	北 林 丈 正	170	畠 山 博 樹	女性 102人	
94	丸 山 博 司	173	畠 山 由 縁	■完走者 240人	
98	加 賀 谷 孝 樹	176	村 上 美 幸	男性 171人	
				女性 69人	
				■完走率 68.4%	



午前4時30分に角館広域交流センター前をスタート



なごみ
心の絆 受け継がれる
和
北緯40度秋田内陸リゾートカップ
第24回 100キロチャレンジマラソン

北緯40度秋田内陸リゾートカップ第24回100キロチャレンジマラソン大会が、9月28日に仙北市角館・北秋田市鷹巣間をコースに行われ、今年も全国各地から集まったランナーが、秋の内陸路を力走しました。100キロの部には、これまで10回以上完走したクリスタルランナー148人を含め1210人、50キロの部に393人の計1603人がエントリーしました。100キロの部は午前4時30分に仙北市の角館広域交流センター前を、50キロの部は午前10時30分に阿仁比立内をスタート。北上してゴールの北秋田市交流センターを目指しました。

今大会のテーマは『心の絆受け継がれる和（なごみ）』。沿道からはたくさん声援が送られ、20か所のエイドステーションでは、水やスポーツドリンクなどの飲み物のほか、おにぎりやバナナ、梅干しなどが置かれ、ボランティアスタッフの心温まるおもてなしで、ランナーをゴールへと後押ししました。

男子100キロの部は、埼玉県の加山幸治さんが、3年ぶり3回目の優勝を飾り、女子100キロの部は、岩手県の大越麻子さんが、見事に栄冠を手に入れました。また、地元北秋田市からは、高橋孝典さん（綴子）が、9位入賞を果たしています。



午後5時30分にゴールが閉鎖され行われた後夜祭では、清水俊一・大会会長が「ランナーの皆さんの様々なパフォーマンスにより、沿線住民に大きな感動と勇気、元気をいただいた。来年は25回目の節目の大会。ぜひ来年も参加くださることを願っている」などあいさつ。

続いて、後夜祭の開催地を代表して、津谷市長が「ランナーの皆さんは、黄金色に実った田んぼの景色を眺めながら、沿線の方々から温かい声援を受け、触れ合いながら走られたと

思う。人口が減り、沿線もさみしくなってきたが、皆さんが感動と元気を与えてくれている。今後も100キロマラソンを通して、この地域を盛り上げてくれることを願っている」などあいさつを述べました。

後夜祭会場には、市内の特産品を販売するお店が数多く出店されたほか、キリタンポやおでん、生ビール等がランナーに振る舞われ、参加者は自分の走りを振り返りながら、家族や仲間たちと談笑し、過酷なレースの疲れを癒していました。